

課題名	重症患者において抜管後の栄養投与経路の変更が及ぼす影響
承認番号	2022-39 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 栄養課 氏名 大川 李絵
研究期間	(西暦) 2023 年 2 月 ~ (西暦) 2024 年 12 月
研究の意義・目的	<p>近年、ICU - AW*<sup>1</sup> など重症患者さんの長期機能予後を意識し、ICU 入室時から重症病態を脱した後も継続した栄養管理が重要視されています。しかし、抜管後*<sup>2</sup>や ICU 退室後に経管栄養管理から栄養経路を変更した場合、栄養投与量が減少することを実臨床において多く経験しています。</p> <p>そこで、抜管後の栄養経路の変更がその後の栄養投与量（エネルギー量・蛋白質量）に与える影響、また、日常生活動作（ADL）に与える影響について比較検討します。院内の ICU 入室患者さんの早期栄養介入から ICU 退室後、転帰時までの継続的な栄養介入について考えます。</p> <p>*1 ICU - AW : ICU - acquired weakness。重症患者さんに発症した急性のびまん性の筋力低下のうち、重症病態以外に特別な原因が見当たらない症候群のこと。</p> <p>*2 抜管 : 人工呼吸器の離脱</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>2019 年 1 月から 2022 年 12 月の期間で、ICU 入室後 72 時間以上人工呼吸管理を要し、ICU 滞在日数が 1 週間以上で経管栄養管理をした患者さんを対象とします。</p> <p>抜管後も経管栄養を継続した群と抜管から 3 日以内に経管栄養から経口摂取を主体とする栄養経路へ変更した群の 2 群に分け、患者さんの背景（年齢、性別、BMI、人工呼吸期間など）、抜管後 3、5、7、14 日目、転帰時の栄養投与量（エネルギー量・蛋白質量）の推移を調査します。また、抜管後の栄養投与ルートの変更が退院時の ADL（日常生活動作）に関連があるか統計解析を行います。</p>
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他 施設へ提供される場合は その方法を含む)	<p>研究にあたっては、研究用の ID と病院の患者さん ID を専用の対応表で結び付け、匿名化します。データベースと対応表は、外部から切り離された電子カルテ内のファイルサーバー内に保存し、外部に持ち出すことのないよう取り扱います。</p> <p>匿名化した情報はファイルにパスワードを設定し、パスワード設定したパソコン内にて厳重に管理します。</p>
利用または提供する 試料・情報の項目	<p>年齢、性別、BMI、APACHE II score、SOFA score、NUTRIC score、人工呼吸期間、抜管後 3、5、7、14、転帰時各々のエネルギー投与量と蛋白質投与量、転帰時の ADL (Barthel Index)</p> <p>いずれも既存のカルテ情報から抽出することとし、新たに提供いただく試料・情報はありません。</p> <p>*APACHE II score : 重症度を客観的に評価した点数</p> <p>*SOFA score : 臓器障害を簡便に評価した点数</p> <p>*NUTRIC score : 重症患者さんの栄養評価をした点数</p>

<p>試料・情報を 利用する者の範囲</p>	<p>横浜市立みなと赤十字病院栄養課 大川 李絵・小林 正幸 横浜市立みなと赤十字病院リハビリテーション部 加納 可奈子</p>
<p>試料・情報の管理におけ る責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)</p>	<p>横浜市立みなと赤十字病院 栄養課 大川 李絵</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 栄養課 氏名 大川 李絵 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101</p>